

当たり前じゃない平和

山王中学校3年 石田 悠真

平和とは、ただ戦争がない状態を指すだけでなく、人々が安心して暮らし、お互いを尊重し合える社会のことだと思いました。かつて世界では大きな戦争が起こり、多くの命が失われました。日本でも空襲や原子爆弾によって、多くの人々が苦しみ、今もその影響が残っています。戦争は、人々の大切な日常や未来を一瞬で奪ってしまう恐ろしいものです。

僕は戦争を直接体験したことはありません。学校の授業で詳しく教えられたり、旅行で資料館に行ったりしたこともありません。だから、「戦争の悲惨さ」と言われても、最初は戦争の苦しさ、悲しさ、残酷さがまったく分かりませんでした。でも、ふとした瞬間にテレビのニュースやスマホの動画で流れてくる、今の世界の様子を見ることがありました。そこには、爆撃でめちゃくちゃになった街や、真っ黒に汚れた服を着て泣いている、僕と同じくらいの年齢の子供やまだ幼い子供たちが映っていました。それを見たとき、言葉にできないような「嫌な気持ち」が胸の中に広がりました。それは、特別な教育を受けているのだからではなく、一人の人間として、直感的に「こんなことは間違っている」と感じたからだと思います。画面の向こう側にいる子にも、きっと僕と同じように、好きな物があったり、やりたいことがあったりなど、明るい未来があったはずです。

しかし、それらがすべて、誰が決めたかもわからない「戦争」というものによって、一瞬で奪われてしまう。その理不尽さを思うと、怖くて仕方がありませんでした。僕にとっての平和は、自分の部屋でスマホゲームをしているときや、卓球をみんなでするとき、お腹いっぱいご飯を食べて「おいしいな」と思える瞬間の中にあります。しかし、それらはあまりにも当たり前すぎて、普段はいちいち「これが平和」なんて孝えもしません。

でも、もし戦争が始まったらそんな当たり前の景色は全部消えてしまいます。自由に出歩くこともできず、夜は明かりを消して怯えながら、明日生きているかどうか分からない。そんな世界は、想像するだけでとても重い気持ちになります。よく「平和のために自分にできることは何か」という問いを聞きます。中学生の僕に、世界を変えるような大きなことはできません。でも、一つだけ確信していることがあります。

それは、戦争という大きな争も、もとを辿れば「自分と違う相手を認めない」とか「気に入らないから攻撃する」といった、僕たちの心の中にある小さなイライラやわがままから始まっているのではないか、ということです。ネットの書き込みで誰かを強く叩いたり、気に入らない相手を見捨てたり、自分の正義だけを押し付けたりすること。それらは、形は違っても、戦争と同じ「心の種」から生まれている気がします。僕たちは、自分と同じ人間であることを忘れて攻撃してしまいます。その小さな攻撃性の積み重ねが、大きな憎しみを生み出していくのです。

僕は、難しい歴史の知識をたくさん持っているわけではありません。でも、戦争の悲惨さを学び、平和な未来のために自分にできることは何かを、これからも考え続けたいです。今は無力でも、想像し続けて、対話し続けることで、いつか争いのない世界を作る一助になりたいと願っています。